

第1回策定委員会に係る質問・意見および回答

【早川委員】

質問・意見	回答
<p>・三次計画を作成するにあたって二次計画の達成度評価と三次における方向性（達成できたこと、できなかったこと、今後の課題）をあげていますが、三次計画は検証しないのでしょうか。市長の発言の内容も、その部分で不十分だったということだと思います。今の課題が明らかになっていないと、四次計画は考えられません。7月以降にするといいですか？)</p>	<p>・第2回策定委員会において、市および社協それぞれで第三次計画の取組状況や課題について検討した結果や市民懇談会およびアンケートの結果を委員の皆さまにお示し、ご議論をいただきます。</p>
<p>・平成25～27年頃は外国人の要介護認定者が何人もいてとても苦労しましたが、最近ほぼ上がってきていません。現在の外国人の年齢別人数、要介護認定者数を今後のために知りたいです。</p>	<p>・第2回策定委員会において、令和3年6月1日時点の小学校区別、年齢階層別のデータをお示しします（行政区別のデータもあります）。 なお、外国籍市民の要介護認定者数については把握しておりません（システムで集計することができません）。</p>

【桐高委員】

質問・意見	回答
<p>・自治会加入率の話題が取り上げられていましたが、ネット社会において、自治会に入らなくても必要な情報は取得できますし、自治会だけではなく、多様な形で「つながることができる仕組み」が必要と考えます。 外国人の方も独自のコミュニティを持っています。</p>	<p>・情報入手のみの観点で自治会加入の必要性の是非は論じられないと考えます。頻発する災害時における市民の安心安全の確保を図るうえでも、自治会加入促進は必要な施策と考えます。 しかし、多様な考えの市民の存在や区・自治会側にも加入を妨げる要因があることも事実です。 ご意見のように、「多様につながるることができる仕組み」づくりも同時に進めて行く必要があります。</p>
<p>・生活上の課題には、「地域や近隣の人に相談したい内容」と逆に「地域や近隣の人には知られたくない内容」があると思います。すべてを地域にまかせるのではなく、「地域だからこぞできること」を計画に反映していけるとよいと思います。</p>	<p>・ご意見のとおり、「自助」「互助・共助」「公助」の視点を大切に、「地域だからこぞできること」も反映できればと思います。</p>
<p>・地域共生社会を目指している中ですが、知らないこと、わからないことに対する差別、偏見はコロナ禍で顕著にあらわれました。差別や排除をなくすには、お互いを知ることが大切だと思います。</p>	<p>・第三次計画にもあるように、「人権の大切さに気づく学習や交流の場づくり」が引き続き必要と考えます。</p>

【上野委員】

質問・意見	回答
<p>・ひとり親世帯で母子世帯が増加となっているが、詳細分析が必要。年代別に分析して、対応の方向性を見出すことが必要。</p>	<p>・年代別にどのような生活課題を抱えておられるのか、そこまでの調査・分析が必要とは考えておりません。</p>
<p>・自殺の状況で、その人の置かれた環境の傾向分析が必要。</p>	<p>・平成 31 年 3 月に策定した市自殺対策計画において、現状と課題を分析し、4つの基本施策に取り組むこととしています。</p> <p>①地域におけるネットワークの強化 ②人材の育成 ③市民一人ひとりの気づきと見守りを促す ④生きることへの促進要因への支援</p>
<p>・自治会の状況で、減少傾向の年代・生活環境等の傾向分析が必要。</p>	<p>・どの年代の方が自治会未加入となっているか、どのような生活環境にあるのかを把握することは困難です。高齢者世帯の方が自治会役員や地域の一員としての役割・責務を果たすことが難しくなったことを理由に脱会されるケースは見受けられます。</p>
<p>・老人クラブの状況で、減少傾向の理由分析が必要。</p>	<p>・老人クラブ連合会の加入クラブ数および加入者数は減少傾向にあります。その理由としては、①連合会の役員となるのが負担、②中央まで出向くのが困難、③連合会事業や活動に魅力を感じない、④老人クラブ活動そのものに興味・関心がない高齢者の増加 などと聞き及んでいます。</p>